



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
 佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 88) uniwish15号 (2014年11月)
 佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
 (電話・FAX) 0952-28-2077
 (業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
 ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
 FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



佐賀県ユニセフ協会設立20周年

2014年9月27日(日)、マリトピアにて、佐賀県ユニセフ協会設立20周年記念式典、およびキャスター・菊川伶トークライブを開催しました。会場は500名の来場者で満席となりました。また、茨城県・千葉県・愛媛県・久留米・熊本県・鹿児島県・宮崎県協会等からのご参加もありました。皆様に支えられ20年間歩み続けてきた佐賀県ユニセフ協会の今までを振り返り、そしてこれからへと繋げる大きな節目となりました。

● ● ● ● ● オープニングイベント ● ● ● ● ●

オープニングイベントでは、DVD「ユニセフと地球のともだち」を上映、ユニセフが支援を行っている国々で暮らす子どもたちの現状、そこでのユニセフ活動を紹介しました。その後、子どもよさこいグループのはつらつとしたダンスが、ステージいっぱいにはやりあげられました。



● ● ● ● ● 記念式典 ● ● ● ● ●

佐賀県ユニセフ協会中尾清一郎会長の挨拶、(公財)日本ユニセフ協会団体・組織事業部長の挨拶、ご来賓の方々からのご祝辞、感謝状の贈呈などが粛々と進められました。

また20年の歩みを綴ったDVDの上映では、映像と共に、続けることの大切さ、多くの方との出会い、支えてくださった方々への感謝の言葉が流れ、会場からは大きな温かい拍手が起こりました。



トークライブに先立ち、菊川伶さんが2012年チャド共和国でのユニセフ活動現場を訪問した際のDVDが上映されました。砂漠化が進むチャドの大地、1日2回のわずかな食糧で暮らす子どもたち、菊川さんが行った学校での授業の様子などが映し出されました。普段学校へ通えない子どもが参加した授業では、生き生きと学び、目を輝かせて「学校へ行きたい」と話す子どもの思いがひしひしと伝わってきました。



トークライブ（一部）



- (菊川) チャドに行く4年ほど前、ケニアの難民キャンプに行ったことがあり、祖国に帰れない人たちを見ました。家が砂漠で、砂で埋もれてしまうチャドをみて気候変動を知りました。何が原因とははっきりと言えない。熱と匂い、そうなんです。映像では伝えることはむずかしく取材は困難でしたね。
- (中尾) 現地に行ったものだけが語れるものはありますか。
- (菊川) アフリカは自分とは別世界で、チャリティというやってあげる感が傲慢に感じるし、悩んだところでもありました。特ダネのディレクターとも話し合っていました。10日間いたかな、やはりつらいんです。幼児が栄養失調で病気になっている、そしてまた病気になるという悪循環。自分の胸が痛みますよね…。地球って一個なんだなあと思います。自分の体だと思いたい。指の先でも血が出たら痛い。そのままだと本体が傷つく。自分と無関係の問題ではないし、そう考えれば自分の事だと考えられるかもしれないと思いました。
- (中尾) チャドの学校で授業をされたときの話（羊糞をノートの罫線を使って五分分するという授業）をお願いします。
- (菊川) 自分の日常生活と近い学びだと、面白いかなと。家族が多いアフリカなので、ご飯も分けていました。五分分するという事は応用できるのではないかと。公式を覚えて因数分解して…というものは意味がないのかなと。子どもたちの目がキラキラしていて、考えて質問して、というのを見ていると嬉しかったですね。
- (中尾) ユニセフは母子に教育、主に母親である女性の地位向上も目的としていますが。
- (菊川) 私と同じ年の女性が8人の子どもを育て、もう孫ができそうということでした。結婚は決められるという慣習ですよ。
- (中尾) 労働力のために、ですかね？
- (菊川) 一概には言えないと思います。ただ、家族が多いと家に倉庫があって今年の穀物が入っていましたが、そのため日々の食事量も決まってくるよ。
- (菊川) やって見ないと、して見ないと、自分で体験してみないとわからない。温度もそうですし、私の会った家族はそうかもしれないが、個人個人でもまた違う。自分の命と考えたとき、生かさせてもらっていることを知ると考え方が変わる。チャドに行こうと思っても飛行機代もかかるし、確かに遠い。今日のこうした講演会のような中で一緒に考えることで、力を合わせて考えていけるのではないかと思います。そのきっかけになると嬉しいです。



- アフリカも自分の身体の一部と同じということを気付かされた。安心・安全の大切さを心から感じる幸せを教わった。
- 講演の形式もいいですが、今日のようなフリートークの形式も良かったと思います。堅苦しくなくてオープンで…本音なども聞いて楽しいひと時でした。ありがとうございました。貴重なお話を聞かせていただきました。菊川さんの話は明快で適切な話しぶりに感動しました。
- 気候変動で栄養失調になってしまう。そして病気になる。世界の子どもたちを守るには小さな役割しかできないなと痛感しました。
- DVDを使用して映像で見ることは理解しやすかった。愛の反対は無関心だという言葉が印象に残った。これを機会に無関心でない自分でありたいと思う。地球の中で生かさせてもらっているという考えを大切に、みんなで力を合わせたい。
- 言葉（話）だけでなく、DVDなどといった映像があって、現地の様子をリアルに見ることができてよかった。
- 娘が国際協力に興味があり親子で参加させていただきました。「ユニセフ」活動の内容は何となくボヤっと分かっている程度でしたが、とても幅広く活動されてあることや、日本だけではなく国際的にいろんなことを考えさせられました。今日は娘がきっかけでしたが今後はユニセフ活動には耳をダンボにして、できることから勉強させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- いろんな方々の支援によって成り立っているんだなあといったことや、改めて途上国の貧困問題、乳幼児の死亡率改善といった話を聞けました。ミレニアム開発目標といった言葉や現状についても考える機会となりました。
- 今回、自分だけが幸せではないという思いを強く感じました。
- チャド共和国の現状を知ることができてよかった。菊川怜さんの積極的な姿。また、司会の方のソフトな語り口も素晴らしかったです。私の勤めている学校の修道会がチャドにあります。シスター方から話を伺ったことはありますが、今日また菊川さんの話を聞いて、私たちができること、すべきことを改めて考える良い一日となりました。ありがとうございました。
- 「地球は一つである。人間の体にたとえたらほんの指先に血が出ていても長く続けば体が病んでしまう。それと同じことだと思う。」という言葉がよかった。
- チャドへ行って実際に見て感じたことを先ず最初にビデオで観ることで会場の参加者が共通の思いを持てたのが良い構成だった。対話形式の気の張らないトークは色々なお話が聞けて本当に良かったです。ユニセフ佐賀の活動も良く分かりました。これからもご活躍を！
- 地球環境問題、アフリカが一番先に受けていること。地球は病んでいる。解決は？もっともっと知っていたかった。
- 幸せの中に利己主義に陥っている日本に比べ、違った世界のあることを多くの人に知って欲しいと思うし、少しでも支援をしたいと思う！！
- 何がきっかけでユニセフに参加したのか？思い出せぬほど老いました。報道でユニセフの活動を見聞きして感動したのが動機だったかもしれません。我が孫たちが平和な日本ですべてに恵まれ成長する姿に比べて、世界中にはこんなにも恵みを受けられず、あまりの痛ましさに涙しました。私は戦後に引き揚げ帰国、何もかも失いましたが無事祖国に帰りました。その当時、貧しさの底辺を経験したので飢えと保護のない苦しみが少なからず共有できます。大したユニセフの活動はできませんでしたが、細く長くその精神を忘れたことはありません。今日、佐賀県ユニセフ協会の方々をお見受けして喜びと期待とで胸ふくらみました。世界中の子どもたちがお腹いっぱいご飯が食べられるように、学校に行けるように祈っております。



皆さまからのたくさんの声、どうもありがとうございました。



「触れてはいけない」 エボラ看護師、子どもへのケアに心痛

「触れてはいけない」

この警告は、エボラ出血熱との闘いが続くシエラレオネにおいて、人々が従うべきルールとなっています。エボラの感染を防ぐためには身体的な接触を避けることが重要だと広く認識されるようになった一方で、子どもたちをケアする際にこのルールを守るのは、決して簡単なことではありません。

子どもたちは本能的に愛情を求めます。そして子どもたち、特に赤ちゃんは常におとなたちの注目を引きつけます。子どもたちに魅了され、抱き上げて笑顔にしてあげたい、寄り添い、抱きしめたいという気持ちになるのです。

身体的な接触を控えることでしか効果的に予防することのできないこの感染症に見舞われたこの国の子どもたちにとって、「触れてはいけない」というルールは何を意味するのでしょうか。

「触れてはいけない」

子どもは、病気にかかったときに特に助けを必要とします。しかし、伝染性の高いウイルスに子どもが感染した場合、看病をする親たちへの感染リスクが高くなります。エボラは、発症した患者の体液を通してウイルスが感染します。つまり、エボラに感染した子どもたちが発症した場合、両親や看病をする人たち、姉妹や兄弟、結びつきの強いコミュニティでは、他の家庭の子どもたちさえもが感染に危険にさらされることとなります。

「エボラと闘うためには、コミュニティで子どもたちを注意深く見守る必要があります。エボラに感染した子どもを直ちに保健施設に連れて行くこと、元気な子どもを感染の疑いがある子どもと接触をさせないこと、そしてもし親がエボラに感染したら、診療所に報告するよりも前に、できる限り早い段階で子どもとの接触を避けるようにする必要があります」と、ユニセフ・フリータウン現場事務所のマーガレット・ジェームス母子保健担当官が話します。



○ UNICEF Sierra Leone/2014/Dunlop
フリータウンにある5歳未満の子どもたちのためのマコーリー診療所。

保健員は治療ユニットでの感染拡大や自らの感染を防ぐため、防護服に身を包み、患者との接触を最低限にするように訓練されています。しかし、病気の子どもたちを抱き上げ、少しでも安心させてあげたいと願う保健員たちにとっては、心が痛いものです。そして、不安を感じ、愛情を求める子どもたちにとっては、心に困惑を招くものです。

「エボラ治療センターで苦しみに耐える子どもたちを目にして、とても心が痛みました。エボラ患者を担当する看護師たちにとって、子どもたちへの治療は最も難しいものです。治療時に身体の接触は避けられませんが、子どもたちは心細く感じ、だれかのそばにいたいと思っています。子どもたちを安心させたいと願う反面、身体的接触はエボラの感染リスクを高めることとなります。とても難しい状況です」と、フリータウンのマコーリー診療所でエボラ患者の治療にあたる看護師のアミナタ・サンカーさんが語ります。

感染の疑いがある子どもやエボラ患者との接触者となった子どもたちにも大きな影響が出ています。エボラの感染が確認されると、家族は「接触者」として、潜伏期間である21日間隔離され、経過観察を受けることとなります。また、エボラによって親や家族を亡くし、孤児となった子どもたちは親戚に引き取られるか、ケアセンターや児童養護施設で暮らすこととなります。

保健推進員のメアリーさんによると、現在、子どもたちと、子どもたちのケアに関わる人々の双方に、辛い状況が続いていると語ります。「感染の疑いがある場合、脆弱な立場にある子どもたちはサポートが必要ですが、しかし、エボラに感染している可能性があるため、子どもたちに触れることができません」

保健衛生省によると、シエラレオネの2,220人以上の子どもたちが、エボラによる影響を受けています。このような事態が、国中で起こっているのです。エボラの感染拡大は続いており、エボラに感染する子どもたちや孤児となる子どもたちの人数は更に増加する見込みです。 【資料提供：日本ユニセフ協会】

ユニセフは、エボラ出血熱緊急下にある西アフリカの子どもたちへの支援を展開するために「エボラ出血熱緊急募金」に取り組んでいます。皆様のご協力をよろしくお願いたします。

児童虐待防止キャンペーンをサポート

昨年度、全国における児童虐待相談は7万件以上

厚生労働省によれば、2013年度に全国207カ所の児童相談所が児童虐待相談として対応した件数は7万3,765件で、これまでで最も多い件数となっています。年々増え続ける子どもへの虐待を防止するため、厚生労働省は、2004年から、児童虐待防止法が施行された11月を「児童虐待防止推進月間」に定め、全国の自治体や民間団体とも協力し、児童虐待を防ぐためのさまざまな取り組みを推進しています。

岩手県も、児童虐待防止法の成立に先立つ2001年11月に「児童虐待防止いわて宣言」を公表。その後も、2002年2月に「児童虐待防止対策指針」を策定し、同じ年、「児童虐待防止ハンドブック」を制作（2006年3月改訂）。2005年9月には「児童虐待防止アクションプラン」を策定（2008年4月改訂）するなど、さまざまな取り組みを進めてきました。



写真提供：岩手県庁子ども子育て支援課
○ 岩手県庁子ども子育て支援課

日本ユニセフ協会の取り組み

日本ユニセフ協会では、東日本大震災緊急・復興支援事業の一環として、震災発生の年から、岩手県をはじめとする各地の自治体の取り組みに連動しながら、児童虐待も含めた子どもに対するあらゆる暴力の防止に取り組んでいます。沿岸部自治体の児童虐待防止の取り組みを支援するために、チラシなどの啓発ツールやラジオ公共CMの制作・提供、CAPプログラム（子どもに対するあらゆる暴力防止のための人権教育プログラム）を推進するための暴力防止スペシャリストの養成や暴力防止ワークショップの実施などを支援しました。今年、岩手県保健福祉部の要請で、同県沿岸部を走る路線バスに啓発用の横断幕の制作費用を支援しました。

【資料提供】日本ユニセフ協会



ご支援
ありがとうございます

母子草様 (株)みうつか様 中島商事株式会社様 STSサガエンタープライズ様 (株)太平洋
アーバントリート法律事務所様 税理士法人諸井会計様 ハクゾウメディカル(株)様
(株)アトル様 日清医療食品(株)福岡支店様 佐賀リハビリテーション病院様 佐賀ガス(株)様
富田薬品(株)様 智博会様 佐賀銀行様 弘学館中学校様 (株)佐賀新聞サービス様
大同生命保険(株)佐賀支社様 (株)佐賀広告センター様 (株)佐賀印刷社様 (株)佐賀新聞社様
致遠館高等学校生徒会様 トヨタ紡織九州レッドトルネード様 佐賀清和中学校様
佐賀県ユニセフ協会20周年事業実行委員会様 柳川市立大和公民館なんでんお助け隊様
佐賀大学文化教育学部附属小学校6年3組トカリス様 みどりのテラス清水様
パンゲア様 ボルガ様 旅館あけぼの様 ぎょうざ屋様 グランデはがくれ様
よってこ十間堀様 ホテルニューオータニ佐賀様 さがんれすとらん志乃様

ヘルスランチあららぎ様 佐賀市立巨勢公民館様 佐賀市立西与賀公民館様 富安造園様
唐津市民病院きたはた様 佐賀市立循誘公民館様 おうちカフェどこ吹く風様
佐賀大学スーパーネット様 西村会計事務所様 新栄公民館様 中道リース(株)様
国際ソロプチミスト佐賀西部様 九州電力佐賀支社様 カイセイ薬局伊万里駅前店
カイセイ薬局荒江店様 (独)高齡・障害・求職者雇用支援機構様 すぎの子文庫様
副島病院様 市民活動プラザ様 かささぎの里様 千代田中部小学校様
佐賀県国際交流協会様 (株)ホンダパーツ西南佐賀営業所様 バプテスト佐賀教会様

(2014年8月16日～2014年11月12日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。





かつどうほうこく



- 8月1日(金)～8月31日(日) TAPプロジェクトin SAGA(県内協力店13店舗)
- 8月20日(水) ドリームパーク ユニセフ出前授業
「やってみよう♪ボランティア♪」神埼小学校ゆめ組 (神埼小学校)
- 8月27日(水) ドリームパーク ユニセフ出前授業
「やってみよう♪ボランティア♪」神埼小学校ほし組 (神埼小学校)
- 8月29日(金) 佐賀県ユニセフ協会設立20周年記念事業広報のためサガテレビ出演 (サガテレビ)
- 9月1日(月) ユニセフ学習 弘学館中学生3年生 (事務所)
- 9月18日(木) ユニセフ講座「インドの女子教育」国際ソロプチミスト佐賀西部武雄センチュリーホテル)
- 9月27日(土) 佐賀県ユニセフ協会設立20周年記念式典 (マリトピア)
- 10月4日(土)～5日(日) さが国際フェスタ月間2014
ユニセフパネル展「わたしも学校に行きたい」
ユニセフチャリティー似顔絵屋さん (佐賀商工会館)
- 10月14日(火) ユニセフ学習 佐賀大学文化教育学部附属小学校6年生トカリス (事務所)
- 10月15日(水) 世界手洗いの日in好生館 (佐賀県医療センター好生館)
- 10月17日(金) 募金贈呈 佐賀清和中学校 (事務所)
- 10月19日(日) さが国際フェスタ月間2014
ユニセフワークショップ「インドの紙袋作り～児童労働について考えよう～」
(佐賀商工会館1階佐賀県国際交流プラザ)
- 10月25日(土) 募金贈呈&ユニセフ出前授業 柳川市立大和公民館なんでもお助け隊
(柳川市立大和公民館)
- 10月25日(土) 第40回全日本ハンドボールリーグ戦佐賀大会にてユニセフカードとギフト頒布&募金活動
(神崎市立神埼中央体育館)
- 10月25日(土)～11月3日(月) さが国際フェスタ月間2014
ユニセフパネル展「インド経済発展の陰で苦しむ子どもたち～ムンバイ～」
(佐賀白山商工ビル)
- 10月29日(水) ユニセフ出前授業 柳川市立矢ヶ部小学校
1年～3年 「だれもが“たいせつな いのち”」
4年～6年 「児童労働について考えよう～インドの紙袋作り～」
(柳川市立矢ヶ部小学校)
- 11月8日(土) 9日(日)
第40回全日本ハンドボールリーグ戦佐賀大会にてエボラ出血熱緊急募金活動
(神崎市立神埼中央体育館)
- 11月11日(火) イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン参加 (イオン佐賀大和店)
- 11月20日(木) ユニセフ出前授業 長崎県雲仙市立国見中学校
「世界の子どもたちは、今。～わたしの願い～」 (長崎県雲仙市立国見中学校)

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください

☆公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもたちの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



ユニセフって なあに？



12月11日はUNICEF（ユニセフ）の誕生日

第2次世界大戦が終わったあと、世界には親や家を失うなどきびしい暮らしをしなければならなくなった子どもたちがたくさんいました。そうした子どもたちを国際連合で助けようとポーランドのルドウィク・ラフマンという人がユニセフをつくることを提案しました。この提案がもとになり、1946年12月11日、国際連合の第1回総会で、ユニセフの設立が決められました。その時の名前は国際連合国際児童緊急基金（United Nations International Children's Emergency Fund）といい、この英語の頭文字をとってUNICEF（ユニセフ）とよばれるようになりました。戦争で被害を受けたいろいろな国に対して（International）、すぐに（Emergency）援助をする、という意味がありました。

その後、ユニセフは1953年に名前から国際（International）と緊急（Emergency）をとって国際連合児童基金（United Nations Children's Fund）としました。しかし、人びとに親しまれたよび名のUNICEF（ユニセフ）はそのまま使われています。そして、戦争の被害を受けた子どもだけでなく、世界中の子どもたちの命と暮らしを守るための活動を始めました。

また、ユニセフのマークは、平和のしるしであるオリーブの葉にかこまれた地球の上で、子どもが高くだきあげられているのをあらわしています。このマークには世界中すべての子どもたちが、心も体も健康に育ち、よりよい世界をつくる力になってほしいという願いがこめられています。

68年前、多くの人々の子どもへの思いがユニセフを創ったときと同じように、世界中すべての人々が、今あらめて「子ども最優先」という人類共通の思いを持ち、行動を起こすことが求められています。

お知らせ

ユニセフによるカード&グッズの製作・頒布の終了

ユニセフ本部自身が行ってきたユニセフカードとギフト（グッズ）の製作・頒布は、**本年2014年末をもって終了**することになりました。これに伴い、当協会を通じたユニセフカードとグッズの頒布、お申込み受付も、本年12月25日をもって終了いたします。

これまで、ユニセフは募金事業の一環としてカードやグッズを直接扱って参りましたが、さらなる効率化を図るため、2015年からは、ユニセフが承認した企業が、ユニセフ・ロゴマークの付いたカードやグッズの製造・販売を行い、その売上の一部を子どもたちのための活動資金としてユニセフに送金する方式に移行します。

日本においては、（株）日本ホールマークが来年秋からユニセフカードの製造・販売を行います。

ユニセフカードやグッズのお求め方法については、来年お知らせいたします。この機会にたくさんのお申込みをいただけることを願っております。そして来年から新たな方式で始まるユニセフカードやグッズについても、引き続きご愛顧、ご協力をお願い申し上げます。

【資料提供】日本ユニセフ協会

Unwish の仲間たち!

吉野ヶ里町立三田川小学校 小森 紀幸さん (みやき町)



ユニセフとの出逢いを振り返りますと、いまから10年以上前の事。当時、私は中原小学校の6年生のクラスを担当していました。総合学習の時間に国際理解のテーマを取り上げようと思い“ユニセフ”という言葉が頭に浮かびました。この時代ですから、インターネットで検索すると、資料はすぐに山ほど出てきました。

しかし、やはり資料だけの勉強ではなく、もっと子どもたちの胸に残るものにしたいですね。佐賀県にもユニセフ（当時は日本ユニセフ協会佐賀県支部という名称でした）があることを知り、早速連絡をしてみても授業に来ていただいたのが始まりでした。

細い路地を入ったところに木造の閑静な家があり、それが事務所だと知った時は大変驚きました。どこかで大きなオフィスのようなものを想像していたのでしょう。（笑）

その事務所の中にいたのが、いまも活動されていますが専業主婦の方や退職した方々なのにもビックリしましたね。その後、子どもたちと学び、世界のことについてまとめて発表させたり、実際に水瓶を運んで水汲みの大変さを痛感したりしたものでした。卒業アルバムにも『ユニセフの授業が一番印象に残っている』と書いてくれた児童もいましたよ。

先日、20周年事業にもお邪魔しましたが、やはり私たちはビデオやニュースの映像を見たときに「ああ、世界にはこんなことがあるのか」と、思いはするものの、日々日常をやり過ごす中で忙殺されて自分の事でいっぱいになりすぐに忘れてしまうようです。

子どもたちがまだ遠い世界の事だ…ともし感じているのなら大人の責任なのかもしれません。あわせて、子どもたちには子どもらしくいてほしいですね。明るく、のびのびと育ててほしい。

私のユニセフとのかかわりの目標としては9年間続けているハンド・イン・ハンドを今年も頑張る事ですね。そして、今は担任を持っていないのですが、クラスを持つ機会があれば、ユニセフと出会ったあのようなときにまた子どもたちと一緒に学びたいですね。



(取材・高原陽子)